

## 【22\_074/思考系メルマガ】『見逃し・見送り』に対する考え方

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

昨日は久しぶりに朝活のトレードでした。

▼GBPAUD(L) 結果 : +33.7pips▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1503169391202287616?s=20&t=K2v4YPUskhrpEBHw2KFTYw>

～～

短期足のセットアップは、朝活なので『M5足/MA収縮』と①波確認後のプルバック待ち。

H4足の20SMA到達までの短期ロング目線。

結果的に丸一日上昇一辺倒だったが、この上昇自体は事前に想定出来ないの

利確を引っ張らないのは僕なりの一貫性です

～～

今日のテーマですが、日々のトレードで多くの人が葛藤するであろう、チャンスの『見送り』に対する考え方です。

型が決まると、あとはひたすらその形を繰り返し再現する場面でトレードする。。。

と、簡単に言えればいいのですが、ここでまた発生する問題が

～折角の“チャンス”をみすみす逃してしまう～ という悩みです。

これに葛藤した事が無い人はいないと思いますので、その点について

僕自身がどう向き合ってきたのか？ どんな 考え方 をすればいいのかについて考えをまとめていきましょう。

□

■ すべての『型通りのチャンス』を拾い切ろうとしないこと

結論を言ってしまうと、満遍なく全てのチャンスをモノにしようとするのは  
トレードの難易度を非常に高くしてしまいます。

なるべく一貫性を保ちながら 楽に トレードをするために、わざわざ手間と時間をかけて  
【型】を作っているのに、結局チャートから目が離せず、値動きに翻弄されてしまつては  
必然的に無駄なトレードも増えていきます。

これまで何度もお伝えをしているように、原則としてチャートは【不規則】です。

理由は単純で、“大小さまざまな思惑” が一つのチャートを作っているわけで  
何か一定の規則だけで値動きが成り立つということは、原理上あり得ないからです。

そう考えるならば、いちトレーダーとして出来る事として

『原則不規則に動いているチャート』に対し、『自分が認識できる規則性』に合致している時だけト  
レードすれば良い。

ちょっとでも「なんか変だ(怪しい)」と思ったら、クリックするその手を止めてしまった方が良いの  
です。

エントリーさえしなければ、『絶対に損はしない』わけですからね。

殆どの方は、自分の仕事・生活が軸にあり、トレードはあくまでも、その生活軸に沿って リスクを  
限定しながら行うのが大原則であるはずで。

ですから、如何に必要以上のリスクを負わずにトレードするかを考えるなら

『敢えて見送る』『見逃しも余裕で許す』という構え方が理想的と言えます。

まあ、「見送り」ってどうしてもカッコ悪く見えるらしく、その重要性はやはりSNS等でも触れられる  
ことは滅多にありませんが。。。

一方でよく見る積み増し(ピラミッティング)などは、トレードの一技術として確かにありますが

僕個人の考えとしては、あくまで『兼業』としてトレードをするのであれば

【損失を限定(最小限化)する】事に重きを置いて、常に『見えるリスク』の中で

『自分が“納得できるポイント”だけに的を絞った』トレードをやるのが

結局一番効率的に稼げるスタイルだと思っています。

ですから、今回テーマとして『見逃し・見送り』というのは、決してネガティブなワードではなく

本当に自分が『納得』できる(それこそ、勝っても 負けても)美味しい実だけを狙ったトレードをすること。

それ以外の「食えなくはない」程度の獲物は全てリリースしてしまう。

それくらい割り切ってトレードが出来る人の方が、楽にトレードして稼げる可能性が高まるということ、強くお伝えしたいです。(実際、パフォーマンスがそれを証明もしている)

確かに、少ない資金を短期間で倍々にする、天底を狙い、上も下も狙ってトレードできるというのは

実践している人を見ると、魅力的に映ると思います。

ですが、それはあくまでも「継続してできれば」の話であって

現実問題、それをやり切り継続できる人はごく僅かですし、多くは人知れず散って行くのです。。。

第一、そんな難しい事が出来ないと、トレードでは「稼げない」という訳でもないのです。

それなら、わざわざ難しく、リスクも高い方法にいきなりチャレンジするよりも

『このやり方が、一番おちついてできるんだよね』というスタイルを構築し、『納得できる所』だけを狙い打って、後は見送る

それ位気を楽にしたトレードを、周りの雑音気にせずできるようになった方が

僕は少なくとも、クールなトレーダーだなと思います(笑)

僕自身もそんなトレードスタイルをイメージして、今後も研鑽していくつもりです。